錦絵新聞の世界　　珍妙無類の事件が続々…

文明開化の明治となり、新しいメディア「新聞」が世に出ると、その記事の中から全国各地の珍事件をピックアップし、錦絵（浮世絵版画）で紹介する錦絵新聞というジャンルが大流行しました。東京日々新聞は落合芳幾、郵便報知新聞は月岡芳年という人気浮世絵師を起用し、いわば浮世絵の新機軸を狙った一手でしたが、その流行も明治7年から数年の間だけでした。

錦絵新聞には、明治という時代をしたたかに生きた庶民の悲喜こもごもが垣間見えます。

京人形とうわさの薬屋の美人妻が居候と密通。怒った主人は女房に特大のしを付けて、その間男にくれ、二人を追い出した。

70歳過ぎて子ができた爺様。嫁に迎えて、さて戸籍を確かめれば、息子の嫁の隠し子。つまり孫娘だったから家族は大混乱。

嵐で難破した船乗り政吉。沈みゆく船の中で遺書を書き、その手箱が数年後、アメリカに流れ着き、無事故郷へ届けられた。

ある大工の家に毎晩12時に現れ、寝ている女房の顔をいやらしげになめ回す妖怪。そのよだれの生臭い事。正体は不明だ。

浅草芸者のおふた。あまりの暑さに、自宅の縁側ですっ裸で涼んでいるところを、警官に見とがめられ、わいせつ罪で逮捕？

山奥の一軒家に住む男、泊めた女行商人を殺害し、金品を奪い死骸を裏庭に埋めた。数日後事件は意外な形で発覚する。

続きは展示会場で…

浮世絵ミュージアム
菱川師宣記念館
千葉県安房郡鋸南町吉浜516　☎ 0470－55－4061